

令和5年度学校自己評価システムシート（県立飯能高等学校定時制の課程） W05

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会で自立できる力を育てる定時制高校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 生徒が安心できる居場所づくりと生徒の自主性、自律性、社会性の伸長を目指す 2 基礎・基本の定着と進路指導の充実を目指す 3 保護者、地域や他機関との連携・協働を積極的に進め、開かれた魅力ある学校を目指す 4 教職員の働き方改革に向けて、業務の見直しとICT化を図り、業務改善を目指す
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	6名
	事務局（教職員）	13名

学校自己評価							
年度目標			年度評価(1月31日現在)				
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 小・中学校時代に不登校等を経験し、人間関係づくりが必要な集団活動をする学校生活に慣れていない生徒が各学年に複数在籍している。 【課題】 多様な困難を抱えた生徒が安心できる居場所となるよう、きめ細やかな教育活動を展開する必要がある。 生徒の自主性・自律性・社会性を育むため、生徒と職員の信頼関係を深めるとともに、教科指導のみならず、学校行事・部活動等の特別活動の充実が必要である。	生徒と職員の信頼関係を深め、生徒が安心できる居場所づくりを推進する	①教員間で生徒情報の共有化を図り、必要に応じて外部人材や関係機関と連携する。 ②コロナ禍で停滞していた学校行事や部活動を生徒が自主性をもって実施する。 ③「報告・連絡・相談」を徹底し、無断欠席、無断遅刻を減らす。	①外部人材や関係機関と適切に連携できたか。 ②行事や部活動において、生徒が自主性をもって実施できたか。 ③無断欠席者等を減少できたか。	①SC、SSW、就職支援アドバイザーを活用して指導の充実を図った。また、市町村の支援課と連携して生徒の学習環境を整えた。 ②体育祭は体育委員が種目を選定し、家族を招いて実施した。また、学芸祭は生徒の映像作品上映会と授業の作品展示を行い、家族を招いて実施した。 ③昨年度からGoogleClassroomでの報告欄を設け指導した結果、無断欠席者は減少した。	A	①本年度構築した他機関との連携を更に強め、生徒が安心して学ぶための環境作りに努める。 ②定時制生徒会交流会で他校の生徒会役員から行事の実施内容や方法を聞いて良いものを取り入れる。 ③電話連絡とモバイルツールを使った連絡を併用することで、無断欠席者等の更なる減少に努める。
2	【現状】 大多数の生徒が小中学校の段階で学習面においてつまづいた経験をもっており、学習意欲の低い生徒が多い。また、クラス内での理解度の差が大きい。 【課題】 「わかる・できる」という成功体験を増やして欠点保有者の減少に努める一方、学習意欲の高い生徒を意識した授業を展開する必要がある。 生徒の進路実現のためにも、県教委の諸事業や外部人材を活用した粘り強い指導が必要である。	生徒の学習意欲を向上させ、自己肯定感を高める取組を推進する	①UDの視点を踏まえ、観点別評価の有効利用とICTを活用することで学習指導を充実させる。 ②習熟度別指導を行うとともに、学習サポーターを活用することで基礎学力の定着を図る。 ③適切に進路情報を提示し、就職支援アドバイザーと連携することで生徒の進路希望を実現する。	①欠点保有者が減少したか。また、授業アンケート調査で7割以上の満足度が得られたか。 ②特に学習到達度の低い生徒を指導する上で、学習サポーターを適切に活用できたか。 ③生徒にとって必要な情報を提示できたか。また、生徒の進路実現ができたか。	①授業力向上に努め、ICTを活用した授業を実施した結果、概ね授業満足度70%以上の回答となった。2学期の欠点保有率は昨年度比13%減(人数比R4:12/43、R5:6/40、)となった。 ②授業において学習サポーターを概ね1・2学年科目へ配置し、苦手意識がある生徒への基礎学力の底上げに努めた。 ③就職支援アドバイザーを活用し、進学合格率は100%、就職は活動中の生徒が残り1名である。	B	①互見授業及び研究協議は継続しつつ、県教委実施の授業力向上もしくはICT活用研修会に積極的に参加する。 ②生徒が主体的に授業に取り組めるよう、学習サポーターの活用方法の更なる充実を図る。 ③次年度も就職支援アドバイザーを活用し、進路実現率100%を目指す。
3	【現状】 定時制の特性について理解してもらうべく、学校説明会や中学校訪問の実施、学校ホームページの更新に取り組んでいる。 また、PTAによる下校指導に取り組んでいる。 【課題】 定時制の特性についての理解を中学生や同関係者、地域に十分浸透させるまでには至っておらず、一層連携を深める必要がある。そのために、適切な情報発信をする必要がある。	学校情報を積極的に提供し、保護者や地域及び関係機関との連携を深める	①学校ホームページを積極的に更新し、定時制の日常が分かる学校情報を発信する。 ②学校説明会や中学校への情報提供を実施する。 ③保護者と連携したPTA下校指導を実施する。また、学校行事を公開する。	①ホームページを1月末時点で50回以上更新したか。 ②効果的な学校説明会や個別説明会を実施するとともに、中学校への適切な情報提供ができたか。 ③保護者と協力した下校指導を2回実施できたか。学校行事を公開できたか。	①教務部と特別活動部が中心となり、1月31日現在までに46回の更新を行った。 ②学校説明会の他に4回の個別見学会を行った。また、全教職員で分担して市内及び隣接市町村6校の中学校訪問を実施した。 ③保護者と協力して下校指導を2回実施した。また、体育祭と学芸祭及び給食試食会を生徒の家族を招いて実施した。	A	①先生方にすべての行事と普段の学校の様子をホームページに掲載してもらった。次年度も継続して情報発信していく。 ②継続して市内中学校及び隣接市町村の中学校と情報交換をしていく。 ③保護者との連携を強めるため、学校行事への参加等PTA活動の充実を図る。
4	【現状】 教職員の働き方改革に向けて、外部人材を活用することで業務内容の効率化を図っている。 【課題】 社会の多様に伴う教員の負担増大を業務の削減及び効率化を図り改善していく必要がある。また、業務の平準化を図る必要がある。	県教委の諸事業や外部人材を活用し、負担軽減を行う	①企画委員会の活性化を図り、各業務間の調整や引継ぎの効率化を行う。 ②県教委の事業や外部講師等を活用しつつ、組織的な教育活動を進める。	①企画委員会を活用し、業務の効率化や削減ができたか。 ②教員の負担軽減に繋がる県教委の事業や外部講師等を活用するとともに、組織的な教育活動ができたか。	①企画委員会で分掌や学年を跨ぐ行事の調整及び3校舎間の行事实施計画の調整を行い滞りなく行事を実施した。 ②就職支援アドバイザーにキャリア教育に関する講義を依頼し、SSWの研修会を実施して担任に替り生徒や家庭のサポートをしてもらうことで教員の業務軽減と教育活動の充実を図った。	A	①各分掌等で総括をし、今年度の反省を生かして次年度の業務削減に繋げる。また、3校舎間で行事が滞ることのないように調整をする。 ②活用できる外部人材は積極的に活用し、教員の業務負担減と教育活動の充実を図る。

学校関係者評価	
実施日令和6年1月31日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
各専門家と連携し、生徒が安心して学ぶための環境づくりに努めている。生徒が自主性をもって行事を計画し、生徒の家族も参加することで充実した行事となっていることは評価に値する。 生徒と教職員の信頼関係が構築されており、モバイルツールを活用することによる一定の効果も感じ取れる。 引き続き、困難を抱えた生徒が楽しく学べる学校となるように各施策において継続して取り組んでほしい。	
ICTの活用により生徒の授業満足度を高めて習熟度を向上させたこと、及び学習サポーターを活用して学習到達度の低い生徒の基礎学力定着に努めたことは評価に値する。 また、就職支援アドバイザーを活用し、進学、就職とも100%近い進路実現の実績も評価に値する。 次年度以降もそれぞれの取り組みを継続、強化し、生徒にとってより良い学習指導、進学・就職支援の実現に努めてほしい。	
ホームページによる広報活動、学校説明会、教職員による中学校訪問等を通じて積極的に情報発信を行ったことは評価に値する。 また、保護者との連携を深めるべく、PTA活動や家族の行事への参加などを行ったことも評価に値する。 地域や関係機関と連携し、定時制の特性について理解してもらえるよう、引き続き学校情報の発信に努めてほしい。	
企画委員会を活用して業務を効率化したこと、及び就職支援アドバイザーやSSWなどの外部人材を活用して教員の業務を削減したことは、教職員の働き方改革推進の観点から評価に値する。 次年度以降もこれらの取り組みを継続、強化し、教職員が過重な業務負担を負うことの無い効率的な学校運営を進めてほしい。	